

[美系優秀【ビケイユウシュウ】作品の魅力にクローズアップ!!]

**打田宗平**

名古屋造形大学大学院造形研究科修士課程  
造形専攻2年



[未完成な竜]

日常的に観ている風景の中に「竜のイメージ」を重ねているのだと言う。なぜ竜なのかを自問しつつ描く彼、打田君の絵の魅力は、のびやかさと恐れを合わせ持っていること。その両方を受け入れ、画家としての可能性を探している姿勢が実にいい。まるで粘土遊びのように造ったり壊したりを繰り返しているのが、嘘がなく勇敢なのだ。(日比野)

[RONDO-2]



**太田雄希**

名古屋造形大学大学院造形研究科  
修士課程造形専攻1年

菱田春草や彼末宏の絵を好む太田君は、技法、内容ともオリジナリティにこだわっている。私は、彼の作品にみられる「寡黙なる熱意」に画家としての素質を感じる。大学周辺の小川に棲息する水草を、何度もスケッチする中で作品は生まれた。水流に薙ぎ倒された草の強さや美しさが、どのように絵に活かされ描かれたかを、是非みてほしい。(日比野)

**占部史人**

愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
博士前期課程2年(彫刻領域)



[古い桐箆箱]

彫刻家を目指す彼は、記憶とか親愛という物質化しがたいものを彫刻にしようとする。色彩を伴いながらそれらは現れてくる。私は、彼に彫刻家であることにこだわって欲しいし、だからこそ簡単に物質化してはならない心の領域を大切にしたいと思うのである。(設楽)

**久保智史**

愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
博士前期課程2年(油画・版画領域)



[drawing]

点を線で結び形と色彩が生まれる。そんな律儀な方法なのに、面白くて深くて広大な絵画世界が出来てくる。私は、彼に心優しい原理主義者であって欲しいと思うし、その困難さを克服するのが絵画的完成であると考えている。(設楽)

**坂本夏子**

愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
博士後期課程1年(油画・版画領域)



[Tiles, powder room]

一筆一筆、順々に繋げられる絵の具が、画面に噛み付くようにして、輝々と立っている。こちらに真っ直ぐに届く絵の具の輝きによって彼女の絵は成り立っている。私は、彼女が絵画の成功はその全体の構成によって在るというよりは、一つ一つの絵の具によって成されるということに気が付き始めていると思う。(設楽)



[yard]

**坂本和也**

名古屋芸術大学美術学部美術学科  
洋画コース2年



緑色を基調とした清らかな画面には、水の波紋が揺らぐ。「ニュートラルな空間の情景を描きたい」と言う坂本君は、「yard(庭、単位)」という題名にその意志を託す。細かい飛沫による洗練された画面には、「我」を超えた視覚の悦びが見いだされる。理屈に囚われない描く力を糧に、さらには絵画への豊かな言語が誘引されることを願いたい。(高橋)

**櫻井裕子**

愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
研修生(油画・版画領域)



ふたつの裸体の写真が糸となり、編み上げてひとつの裸体になる—これはいったい何か? 私は、彼女の心の深層を推察したり、造形的な作法について考察したりしない。ただ、紡ぐというひたむきさ、誠実さを拠り所にする彼女の制作を信頼している。(設楽)



[untitled2]

**杉浦仁実**

名古屋芸術大学美術学部  
造形科造形コース3年



「だれも使っていない素材を使いたい!」という若者らしい意欲と、発想の柔軟さを発揮する杉浦さん。自らの心情から発するテーマと素材に出会えたことから、生と性の関係を意識した。オムツの綿を用い、受精卵から老人までのサイクルが視覚化された。この作品がどのように観客に届くかを見定め、さらなるテーマの深化と展開を期待する。(高橋)



[生と性の関係]

[ウォーターホーム]



**福本百恵**

名古屋芸術大学美術研究科  
絵画研究領域日本画制作研究研修生2年目



伝統的な技術と作法をふまえながらも、独自の大きな日本画を目指す福本さん。本展のために、象が水しぶきをあげる大胆な構図の大作に挑んだ。写実的な形態にあえて抽象性を加味することで、幻想的な画面を創出しようとする。岩絵の具のざらつきと金箔の妙。着実ながらも、制作にかける果敢な意欲がたのもしい。(高橋)

**山下拓也**

名古屋造形大学美術学科  
総合造形コース4年



[幅10cmのマンモス]

目立ちたい! 思いついたら直ぐに形にしたい! という山下君には、現代の若者に特徴的な「しなやかさ」「工作少年的なエナジー」を感じる。一方で、形式や常識に対抗する志向は、60年代の前衛美術家たちに通じている。チープな素材で人々がクスッと笑うようなものを大真面目に造っている。それらが渾然一体を成しているところが面白い。(日比野)

**山本志保**

名古屋造形大学大学院  
造形研究科修士課程造形専攻2年



山本さんは集めた服などに、雑誌や新聞の写真などから感じた形を描く。その過程で、不特定多数の人々との直接的、間接的な交流がある。今回は一般の方々の衣類や布製品に描くそうだ。自分の感情、他者との関わりを確かめながら、日記を書く感覚なのだろうか。人の思いを覗いてみることは、至極興味深い。生々しい驚きが在りそうだから。(日比野)



[Drawing1]

展覧会「美系優秀」の  
出品作家をチェック!

[まわる、うつる、ひろがる]



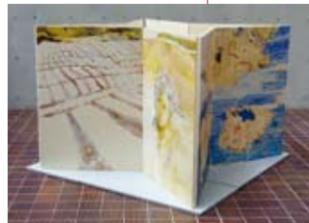
**スイッチ(英名:Switch)**

阿部詩織、天池知子、加治屋弘樹、  
近藤真琴、島崎祐輔

名古屋造形大学  
デジタルメディアデザインコース

彼らは、昔ながらの遊びであるコマまわしと、テクノロジーを組み合わせた双方の装置を造った。「触れて遊べるアート」であり「瞬間に出会うアート」だ。コマをまわすことによって、その回転速度や場所に反応して映像が変化する。人は無意識に遊び方を工夫し、そこに何らかの出会いが待っている。夢中になるのは子供だけとは限らない。(日比野)

[ちず・あやとり・チチカカ・きぎ]



**鈴木由衣**

愛知県立芸術大学大学院美術研究科  
博士前期課程2年(油画・版画領域)



物語が絵になるのか、絵が物語になるのか、双方向にシャトル(梓)が行き来して彼女の絵画は織られている。私たちの脳内の視覚意識に網膜が在ったとして、それはこのような物語とイメージの織物かもしれない。私は、彼女が、幼子が畏敬する世界の不思議さについて忘れていないことを尊いと思うし、それは物語と絵の原点であると思う。(設楽)

**前川宗睦**

名古屋芸術大学美術学部  
絵画科洋画コース4年



[触診レントゲン(上半身)No.3]

身体表面への関心が、前川君のテーマである。白い肌着を縫い合わせ、首下から手足の先までを包むスーツ。だらりとした抜け殻は、生々しく不気味であろう。「自分の身体がいちばん身近なモチーフだから」と言う前川君は、黙々と自らを纏う皮膜を纏う。その様子は、創ることへの思索であり、真摯な自問でもあるようだ。(高橋)

**吉田瑠志有**

名古屋芸術大学大学院美術研究科  
同時代表現研究大学院1年



林の中の間、空につながる道と草原、寂しげな石の階段。銅版画のエッチングやアクアチントの技法を混合して、モノクロームの静謐な風景を描き出す吉田さん。明るい絵が嫌いではないのに、画面に向かうと無意識に故郷の新潟の原風景がにじみ出てくると言う。黒にも様々な深みと表情があるように、作者の誠実な機微が伝わってくる作品だ。(高橋)



[開始点]

[執筆]

設楽知昭(愛知県立芸術大学美術学部教授)  
高橋綾子(名古屋芸術大学美術学部准教授)  
日比野ルミ(名古屋造形大学造形学部准教授)

情熱を見よ!  
美大生たちの、  
作品への

入場  
無料

美術系学生選抜展  
美系優秀【ビケイユウシュウ】  
2009

12月3日(木)~20日(日)  
10:00~17:00(入場は16:30まで)  
文化フォーラム春日井・  
ギャラリー、交流アトリウム

[後援] 春日井市教育委員会  
[助成] (財)せとしん地域振興協力基金  
[協力] 美系優秀2009実行委員会

12月5日(土) 14:00~2時間程度  
ギャラリーツアー開催